

ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業
評価アンケート（案）について

もくじ

◇目的	・・・	1
◇評価の概要	・・・	1
◇評価の単位／評価番号について	・・・	1
◇アンケートの具体的な手法	・・・	2
◇アンケートの回答者（対象者）	・・・	2
◇アンケートの区分	・・・	3
◇アンケート実施時期	・・・	3
◇アンケートの流れ	・・・	4
◇アンケートの実施に関するスケジュール	・・・	5
◇アンケート実施整理表	・・・	6
◇5段階評価の判定区分	・・・	7
◇アンケート一覧		
【Ⅰ実績（実績アンケート）】		
・事業完了毎に実施		
（1）各事業共通（対象：補助事業者／実施団体）	・・・	8
【Ⅱ効果（効果アンケート）】		
・事業着手から起算して2年後（3年目）に実施		
（2）各事業共通（補助事業者／実施団体）	・・・	12
※刈払機、粉砕機の購入・森林の公有林化を除く		
各事業共通（地域評価者用）	・・・	18
（3）荒廃した里山・平地林の整備：刈払機、粉砕機の購入 （補助事業者用）	・・・	24
（4）森林の公有林化（補助事業者用）	・・・	30
◇判定整理表（総括・詳細）	・・・	36

◇目的

ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業の実績や事業実施に伴う効果について、ぐんま緑の県民税評価検証委員会において評価を行い、県民に公表するものとするため、補助事業者及び地域評価者を対象としてアンケートを実施し、評価を行うための判定因子とする。

◇評価の概要

評価者：ぐんま緑の県民税評価検証委員会

評価時期：事業着手から2年後（3年目）に実施

評価の単位：継続的に取り組む一連の事業又は関連する事業（評価番号単位）

◇評価の単位／評価番号について

継続的に取り組む一連の事業又は関連する事業毎に評価番号を付番する
評価番号は、下表のとおりとする。

評価番号	市町村－事業名－評価年度－連番
例) 前橋－里山－H28－1、高崎－自然－H29－2	

※一連の事業のイメージ

H26年度（初年度）	H27年度（2年目）	H28年度（3年目）
 困難地整備支援／整備	 管理	 管理
例) 困難地整備支援 ○○市□□地区 竹林1.00ha 実施団体：○○市	例) 管理 ○○市□□地区 竹林1.00ha 実施団体：□□自治会	例) 管理 ○○市□□地区 竹林1.00ha 実施団体：□□自治会

同一箇所

◇アンケートの具体的な手法

5段階評価及びコメント型の2つの手法を用いて判定因子とする。

5段階評価	「よい」・「わるい」、「できた」・「できない」などの、対となる言葉を両極にとり、その間をスケール化（5段階）し、回答者の印象やイメージを定量的に明らかにするための手法。
コメント型	5段階評価（定量的）では把握できない内容について、回答者が自由に記述することにより、内容を把握するための手法。

◇アンケートの回答者（対象者）

補助事業者	ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業に取り組んだ団体等 例）市町村、NPO 法人、ボランティア団体、自治会など ※なお、アンケートを実施する際は、「補助事業者」を「事業実施団体」と表記を変更し、実施する。
地域評価者	ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業の事業内容等を熟知（理解）し、補助事業者が実施した事業内容について客観的な視点に基づき判断できる者 市町村を通じて、回答者を選定 例）市町村、市町村が推薦する者

◇アンケートの区分

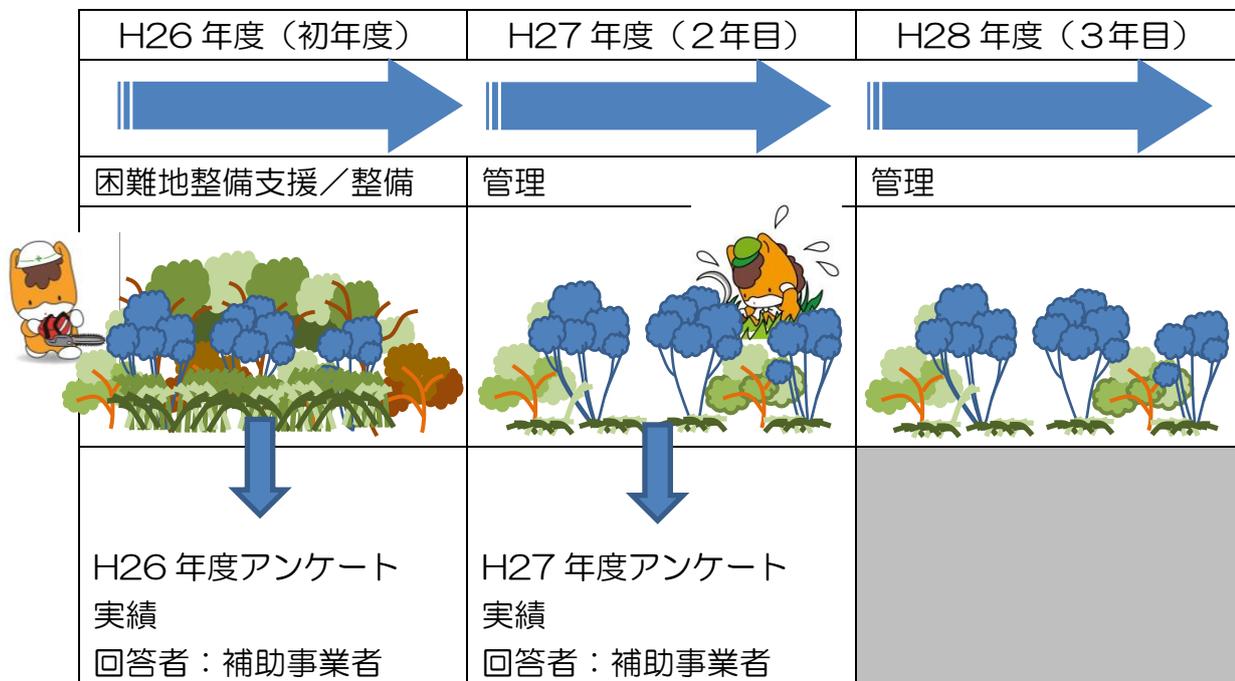
<p>I 実績 【回答者】 ・補助事業者</p>	<p>【アンケートの視点】 事業の実施した内容が、採択された計画の内容どおり実施されているか。 ・事業規模、事業内容 ・経費、コスト ・目的の達成 ・管理体制※荒廃した里山・平地林のみが対象</p>
<p>II 効果 【回答者】 ・補助事業者 ・地域評価者</p>	<p>【アンケートの視点】 II-1（公共性） 取り組んだ事業の効果が地域に対して利益があるか。 ・地域の意見、主体性 ・地域の利益 II-2（効果の可視性） 取り組んだ事業の効果が、事業実施により目に見える形で効果が得られているか。また、事業を実施することで社会的な波及効果が期待できるか。 ・事業の継続性 ・事業の波及効果 ・意識の向上</p>

◇アンケート実施時期

<p>I 実績</p>	<p>各補助事業の事業完了後に実施 （毎年実施） ※評価を実施した事業については、実績のアンケートは対象外</p>
<p>II 効果</p>	<p>事業着手から2年後（3年目）に実施 （3カ年の取組状況を通じて回答）</p>

◇アンケートの流れ

実績に関するアンケート：事業完了後に実施



効果に関するアンケート（事業着手して2年後：3年目）

